



西原小学校の子どもたちとALT(外国語指導助手)

世の中の変化に合わせて、社会で求められる力も、学校での学びも変わっています。これから世界へ羽ばたいていく子どもたちに身に付けてほしい力とは？ 変わりゆく3つの教科から、一緒に見ていきましょう！

問い合わせ

指導課 ☎7191-7369 ・ FAX 7191-1212  
学校教育課 ☎7190-5779 ・ FAX 7191-1212

英語と一緒にジェスチャーをたくさん使うから分かりやすいんだ！

習った英語は学校の外でも使ってみることがあるよ

英語の授業、いっぱい話せて楽しい！

次のページでは授業の様子をのぞいてみましょう！

## これからの学びはこう変わる！

今の子どもたちが大人になるころには、職業によっては人工知能やロボット等が人に代わって働くようになると予測されています。そのような激変する社会を生き抜く子どもたちのため、2020年に施行となる新学習指導要領では、答えのない課題に対し、他者と協力し合い、新たな価値を創造していく力を育むことを目指しています。市でも、その根底となる「学び続ける力」を育てるため、授業や学校環境の整備を進めています。

これまで

完成形(答え)は1通り  
何回行っても出来上がりは同じ



これから

完成形(答え)は何通りも  
関わる人々のアイデアによって、チャレンジした回数分の答えが出来上がる



この「かしわエデュ」(P1~4)は抜き取ってお読みください

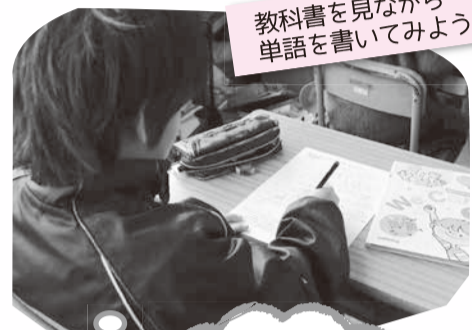
# 3年生からスタート! 英語

社会の急速なグローバル化の中、英語力の向上は全国的な課題となっています。これに伴い2020年度から、小学5・6年生ではこれまでの「外国語活動」に代わり「外国語」の授業が、さらに小学3・4年生では新たに「外国語活動」の授業が正式導入されます。柏市では、今年度から正式導入に向けて小学3年生からの「外国語活動」を全校で開始しました。

## 小学校の英語で学ぶことって?

新しく3・4年生から始まった「外国語活動」では、話したり聞いたりする中で英語と日本語の違いに気付き、慣れていくとともに、英語や外国の文化について体験的に理解することを目指した学習をしています。一方、5・6年生では、実際のコミュニケーションで活用できる読み書きも含めた基礎的な力を身に付けることを目標に、語彙(ごい)や語順を意識しながらコミュニケーションを取る場面が増えていきます。

このように、中学校で学ぶ英語を前倒しで学ぶのではなく、**段階的に慣れ親しんでいく**ことで、勉強面での「中1ギャップ」を少なくし、中学校へスムーズに移れるようにしています。



酒井根小学校では…

## 授業風景ってどんな感じ?

小学校では、「聞く」「話す」ことをメインに、時には立ち上がって体を動かしながら英語で歌ったり、ゲーム感覚で英単語と親しんだり、笑顔の絶えない楽しい授業が展開されています。コミュニケーション活動をより充実させるために、市では平成29年度から新たに、各小学校へ**小学校外国語活動支援員**を順次配置し、**担任の先生やALT(外国語指導助手)と連携した授業**を行っています。



柏第一小学校では…



西原小学校では…



▲左から担任、ALT、小学校外国語活動支援員



酒井根小学校では…

## 覚えた英語を楽しく使おう!

市では、子どもたちが**学んだ英語を使う機会を**広げていくことにも力を入れています。市内に勤務するALTがチームで学校を訪問し、1日かけてたくさんのクラスでアクティビティ(体を使った言語活動)や絵本の読み聞かせを行う「**国際交流会**」や、楽しく英語を使いながらレクリエーションや料理などをするイベント「**Kashiwa English Camp**」など、今後も、子どもたちが普段の授業で覚えた英語を楽しく使える場を提供していきます。ぜひご家庭でも、「今日は学校でどんなことをやったの?」と問いかけて、英語の話を聞いてみてください。



英語で料理に挑戦!



今年度初開催のKashiwa English Campでは…

異文化理解を深めます

## 小学校外国語活動支援員に聞きました!



私は4月に子どもたちと3つの約束をします。「Keep smiling. (笑顔で)」「Don't be shy. (恥ずかしがらないで)」「Speak lots of English. (たくさん英語を話しましょう)」です。子どもたちと校内ですれ違ったり、自然に「Hello!」と笑顔で声を掛けられるのがほほほ楽しく、とてもうれしいです。これから外国語教育が本格的に始まりますが、子どもたちに「楽しい」と感じてもらうことで、抵抗感なく授業に参加できるよう日々サポートしています。ご家庭でも英語の話をしてみるなど、国語や算数と同じように身近に感じてもらうとうれしいです!

◀酒井根小学校 加藤真理先生

## ALTに聞きました!



ALTとして働き始めて8年になります。ALTが学校にいて、英語だけでなく、多様な文化を受け入れる気持ちも学んでほしいと思っています。「外国人だから」と敬遠されることはなく、学校では子どもたちから声を掛けてきてくれますよ。「人は教えている間に学ぶ」というのが私のモットー。子どもたちや先生たちの努力で、授業中もうまくコミュニケーションがとれていますし、相乗効果で学び高め合っているように感じます。英語を身に付けるには「英語でコミュニケーションをとる」ことが大切! 年齢が上がるにつれ段々難しくなりますから、小学校のうちに、まずは私たちが楽しさを伝えていきたいと思います。Let's Try!

◀シルヴァ先生

## Point 先生たちも勉強!?



夏休みは先生のお勉強期間

子どもたちだけではなく、先生たちも英語の指導方法を勉強しています。例えば、夏休みに行われる研修では、授業中によく使うフレーズ(クラスルームイングリッシュ)を学んだり、先生たちが児童役となって模擬授業を行ったりと、さまざまな方法で技術の向上に努めています。

# 教科に変わる! 道徳

これまで「教科外の学習」だった道徳ですが、小学校では今年度から、中学校では来年度から教科になります。「道徳を学ぶ」ってどういうこと? 教科になるってどういうこと? 大人の私たちも一緒に考えてみませんか。

## 「道徳を学ぶ」ってどういうこと?

生命の尊さや思いやりの心など、「**変わらない正しさ**」を学ぶことは重要です。同時に、多様な文化や価値観を持つ人々と共に共生していくかなど、答えが1つではない問題に対して、「**自分の答え**」を出す力も必要です。

そのため、授業では子どもたちが自由に考え、議論し、物事を自らの生き方を見つめたりします。



活発な意見交換



先生は議論を深める進行役

高柳小学校では…

## Point

教師が子どもの意見を否定し、一定の価値観を押し付ける授業は、最も避けなければなりません。

## これまでと何が変わるの?

教科になった道徳は、これまで必要に応じて各家庭で購入していた副読本に代わり、無償で教科書が配布されるほか、**通知票に評価がつく**ようになります。評価の仕方は、「何ができるようになったか(できていないか)」という見方ではなく、子どもたちが授業中に「**どのように学んでいたか**」、あるいは「**成長したか**」を文章で認め、励ます視点で行います。なお、道徳の評価は入学試験の内申書等には一切使われません。

## LET'S TRY!

実際の授業で扱われる「家族愛」がテーマの例題をご紹介します。読んで感じたことを、ご家族で意見交換してみたいかがでしょうか。

ある朝、Aくんはお手伝いをしたことなどを列記して、お母さんに500円の請求書を差し出します。昼、お母さんは黙って500円と、別の請求書をAくんへ渡します。500円をもらって気を良くしたAくんが、その請求書を開くと、お母さんがAくんにしたことが列記されており、すべて0円と書かれていました。それを見たAくんは涙で請求書が読めなくなってしまいました。

うーん…  
家族で生活する上で大切なことはなんだろう?

Aくんはなぜ泣いたのかなあ?

# 授業力アップ! 算数

市では独自に、学力学習状況調査の結果から子どものつまづきを分析して原因を探り、指導の改善に活用しています。さらに一部の小学校では、教育委員会と一丸となって、算数でのつまづきを解消するための授業を目指す「**算数科授業力向上事業**」に取り組んでいます。

## 「つまづき」の分析って?

「円と球」の場合(小学3年生)  
下の図のような箱があります。この箱には、半径3cmのボールがぴったり5個入ります。箱の横の長さは何cmですか。



正解は「30cm」

この問題は、「球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める」という内容です。正答率は市全体で54.9%と**半数近くの児童がつまづいています**。

では、多くの児童がつまづいた原因は何でしょうか? 間違いの内容を見ると、問題文の半径3cmをそのまま使い、「3cm×5個=15cm」と解答した児童が多かったことが分かりました。

一方で、円の直径はどこかを問う問題では、正答率は86.2%と高く、円や球の基礎的な知識は理解できています。「**球がぴったり入る**」という言葉から、「**球の直径の長さを使って求める**」という気づきに結びつかなかったことが、今回のつまづきの一因だと分析しました。

## どうやって授業に生かすの?

そこで、先ほどの「円と球」の授業では、児童が見慣れたボールを使い、ボールがぴったり収まる箱の長さについて、班ごとに考えたり、図に表したりしながら調べ、箱の長さを求めるためには「**直径**」が分かればよいということ、実際の体験を通して学びました。

## Point

学習内容に合わせてつまづきを分析し、それらを踏まえたさまざまな指導方法を効果的に取り入れることで、**全ての子どもが分かった! できた!**と実感できるような授業を工夫しながら行っています。



このボールがぴったり入るのはどんな箱?

2学級を3つに分けた少人数指導

## 担任の先生に聞きました!

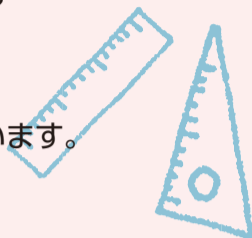


これまで、事前に単元の予備テストでつまづきを探っていましたが、今は学力調査のデータも合わせて活用することで、正確につまづきの把握ができるようになりました。活動内容や問い掛けを十分に考え、工夫してから授業ができるので、子どもたちも間違いを恐れず積極的に発言し、いろいろな解き方を探す姿勢が増えたように感じます。そんな子どもたちの変化にやりがいを感じています!

◀酒井根西小学校 仁木朋美先生

# 私たちも一緒につくる！子どもの未来 「チーム学校」のススメ

自分や子どもが卒業してしまえば、学校は関わりのない場所…そんなふうに思っていないですか？  
実は、学校の中では、地域のかたが自らの経験を生かし、たくさん活躍しています。  
2020年に施行される新学習指導要領では、学校と地域社会が連携しながら  
教育活動を行っていくことが求められていて、市でも「学校支援ボランティア」を積極的に推進しています。  
今回は、市内の3校にさまざまな形で関わるかたの活動と声を紹介します。



柏中学校「ゆいの会」 富田谷三恵子さん

柏中学校区（柏中学校、柏第一小学校、旭東小学校）でボランティアを行う「ゆいの会」を立ち上げて、今年で11年目になります。昔は考えられなかったですが、今は当たり前のように学校に地域の人が入っていますね。ボランティアの中で、今の子どもたちがどんな様子なのかも見えますし、地域で子どもたちと会っても「**学校に来ている人だ**」と知ってくれるのは

うれしいことです。

毎日の**自主学習ノート**を丸つけする活動は午前中いっぱいかかりますが、始業前に学校図書館を開館する活動では、仕事の前に学校に立ち寄り、活動をしてから出勤…なんてかたもいます。みんな気楽に、**自分に合ったやり方**や頻度で活動しているのが、長く続く秘訣（ひけつ）ですね。

## ポイント

### 自主学習ノートの丸つけ

校内で毎日集められるノートを、先生に代わって丸つけします。先生からも感謝の声がたくさん！



## ポイント

### 学力向上支援員

地域のかたが担任の先生の授業サポートを行います。花野井小学校では、現在3人の支援員のかたが、算数の授業で丸つけをお手伝いするなど、活躍しています。



花野井小学校「花サボ会」 山崎一雄さん

「花サボ会」は10年以上の歴史を持つ学校ボランティアの会です。中でも**学力向上支援員**は花野井小学校が誇るボランティアですが、学校の授業に入るとするのは大変なこと。放課後のステップアップ学習会で3年以上指導のボランティア経験を積んでもらうなど、きちんと技術を持ったかたが入るようにしています。

とはいえ、ボランティアは「**楽しくやる**」ことが第一。地域で活躍の機会を待っているかたとともに、一緒に楽しく子どもたちを支えられるよう、これからも継続して活動していきたいと思っています。



名戸ヶ谷小学校「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」 篠崎将さん

元々、自然や生き物に興味があった私の場合、ボランティア活動は**好きなことが高じて始まった**ようなものです。普段は月に1度活動していますが、田植えや稲刈り、脱穀、餅つきなど、学校と一緒にやる活動も季節ごとにたくさんあります。今では少なくなった自然との交わりは、子どもたちにとっても、**好きなものを見つける良いきっかけ**になるのではないのでしょうか。生き物について私たちより詳しい子もいますよ。

何年にもわたって子どもたちを見ていますが、田んぼの泥の感触に喜び子どもたちを見たり、卒業した子が友達と遊びに来てくれたりと、触れ合いを楽しみ中で、**我々も若返る**ような気がします。

## ポイント

### 多様な体験活動のサポート

名戸ヶ谷小学校では、普段学校の外で活動しているボランティア団体が学校と協力し、伝統芸能の体験や科学の実験など、子どもたちの多様な体験活動をサポートしています。



紹介した以外にも、通学路の見守りや花壇のお世話、読み聞かせや授業支援など、  
学校ごとの特色に合わせて、たくさんの地域のかたが活躍しています。

自分の知識や技を生かした「**チーム学校**」の皆さんが、子どもたちの学校生活や学校運営を支える大きな力となっています。

